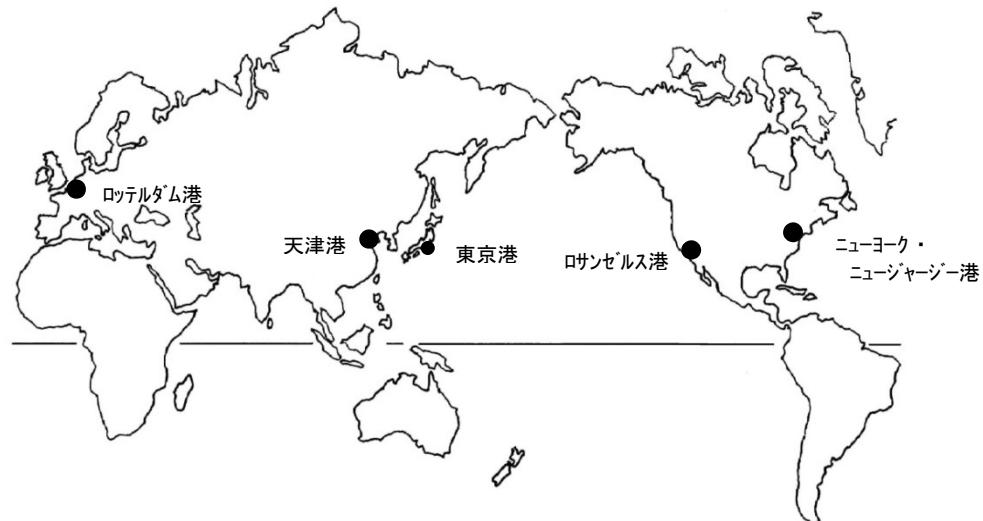


VII参考 1 友好・姉妹港



【ニューヨーク・ニュージャージー港】

[1980(昭和55)年5月15日提携]

NY/NJ港は、世界初のコンテナポートとして知られ、ニューヨーク州とニュージャージー州の二州にまたがる。同港を一元的に管理するNY/NJポートオーソリティーは、それぞれの州知事から指名、州上院議会の承認を得た6名ずつ、計12名の委員により運営され、財政的に両州から独立した自活の公的機関である。2023年のコンテナ取扱量は781万TEUで、東岸最大級の取扱量を誇る。

パナマ運河拡張後の大型船寄港に対応するため、航路水深の増深やベイヨン橋の嵩上げ、オンドックヤードの拡張工事を進め、東岸最大港としての能力維持を図っている。また、港湾のほか、J.F.ケネディ国際空港など5空港、トンネル、橋、NY/NJを結ぶ鉄道など、多角的な事業を実施している。

2025年に、東京港との姉妹港提携45周年を迎えた。

【ロサンゼルス港】

[1987(昭和62)年11月18日提携]

サン・ペドロ湾に隣接するロングビーチ港とともに北米を代表する港湾。ロサンゼルス市中心部から約30km南に位置し、陸・水面合わせ7,500エーカー（約3,035ha）に及ぶ広大な敷地を有し、背後に1,800万人の消費人口を擁す。南カリフォルニアの製造・物流基地としての機能を担っているほか、ダブルスタックトレイン（DST）で内陸地や遠く東部地域をも背後圏に取り込んでいる。2023年のコンテナ取扱量は863万TEUで、米国最大のコンテナ港の地位を堅持している。また、年間100隻を超えるクルーズ客船が寄港するクルーズポートとしても有名。

環境への配慮にも率先して取り組み、2006年にサン・ペドロ湾ポート大気清浄化活動計画(CAAP)を策定し、船舶陸電(AMP)や燃料規制といった、船舶のみならず車両・荷役機械等からの大気汚染物質削減に向け、港全体で取組みを進めている。

【天津港】

[1981(昭和56)年6月25日提携]

天津港の開港は清朝時代の1860年であり、コンテナ化の対応は中国の港湾では最も早く1980年代初期にコンテナ専用ターミナルがオープン。首都北京から150kmに位置し、中国北東地域及び北西地域を背後に抱える物流の要衝。背後圏は450万k m²、中国全土の47%にも及ぶ。2023年のコンテナ取扱量は2,219万TEUとなっている。

従前の港湾管理者であった天津港務局は2004年に機構が改正され、天津港（集団）有限公司に転身、所属企業を一括集中管理して効率的な港湾経営を目指すなどの組織改革も行われている。

【ロッテルダム港】

[1989(平成元)年4月25日提携]

国際河川マース河口部から約40kmにも及ぶ広大な港湾施設を有し、2023年のコンテナ取扱量は1,344万TEU、石油や石炭などを含めた2023年の貨物取扱量は439百万トンで、欧洲ゲートウェイと称されるように、名実ともに欧洲最大の港湾である。ライン川などを利用した河川輸送も盛んで、隣国のドイツやベルギーをはじめ、遠くはスイス、フランスなどにも大型バージによるコンテナ輸送を行っている。

港湾局では、増加するコンテナ貨物に対応するため、マースフラクテ2(MV2)の開発が進められている。MV2は岸壁延長11.2km、水深20mの大規模ターミナルで、2015年4月にAPMターミナルマースフラクテ2が、9月にはRWGターミナルが供用開始した。